

和地ひとみレポート No.259

第2回多摩広域連携サミット

各市の市長の個性もキラリ…？

広域連携の可能性を模索

■多摩広域連携サミット

…11月21日の午後、立川市の立川日航ホテルで第2回多摩広域連携サミットが開催されました。この多摩広域連携サミットは、立川市の市長の呼びかけにより、立川市に隣接する自治体の首長（市長）が一堂に会して開催するもので、一般の傍聴も可能となっています。第2回となる今回ですが、会場には多くの傍聴者が来場しており、ほぼ満席の状況でした。

…現在は、地方自治体がその市域を越えてより広域的な観点から対応すべき多くの行政課題を各市が抱えています。そのため、近隣自治体との連携、協力、調整を進めていく必要性が高まっているという観点から、既存の枠組みを越えて、新たな広域連携のあり方を検討するためには、まず首長がこの問題について共通認識をもつことが必要との考えからこのサミットはスタートしたとのこと。参加自治体は、東大和市、立川市、昭島市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、福生市、武蔵村山市の9市となっています。開会にあたっての立川市長の挨拶では「経済縮小、財政縮小、高齢化などの将来に対しての非常に難しい課題に向けて、何とか打破できる方法はないものかという発想のもとに、それぞれ同じ悩みを持つ自治体同士が広域的に連携をすることによって、様々な課題が解決できるのではないかという思いで立川市に隣接する自治体の首長の皆様にお声がけをした。昨年、利用者の利便性を高めるための図書館の相互利用、職員のレベルアップに向けた団体への出向などの人事交流という話が出ており、もう既に事務レベルでこのような連携が芽生えている。また、立川市と日野市ではコンピューターの基幹システムの入替えに関して連携をしながら、三鷹市にも加入いただいた3市で基幹システムのリニューアルをしていこうではないかという話がほぼまとまっている。今後も、課題をより掘り下げていく中で、様々な連携で解決をしていきたい。」との話がありました。

■テーマは観光

…今回のテーマは「広域連携による観光施策の推進～多摩の魅力を生かした観光振興に向けて～」のテーマを設定した背景については「第1回のサミットで各市長から『これから人口減少社会を迎え、自治体として生き抜くためには、広域的に連携して人を呼び込む必要がある』という認識が示されたことから、そのツールとしての観光について、意見を交わしてはどうか」ということからとのことでした。そして、今回のサミットのファシリテーターには、エリアマネジメント、都市・地域経営、地域自治、公民連携、市民まちづくり事業、地域包括マネジメント等を専門分野としている法政大学の安井美樹教授を迎えて、各市の観光施策



について、そして、それらの施策の中で連携できるものはないかということなどが話されました。

■広がる『観光』の意味

…最初のファシリテーターの安井教授からの今回のテーマについての話では「9つの市の市長の求める『観光』というもののイメージに共通解が見えてくるかというのが、今回の大きなポイントだと思う。『観光』というものは、近年、益々多様になっている。大きなイメージとしては、いわゆる観光客が、その地域の宿泊施設に泊まり、様々な施設を楽しんでもらうというものがあると思うが、近年はビジネスでやって来た人に多少の周遊を楽しんでもらうということを推進していくことや、移住者まで考えた中長期的なもの、さらには住みたい町にしていくことまでを『観光』と呼ぶようになってきている。こういうことを整理することなく総花的な『観光施策』というものを進めていくことは、是非、避けていただきたい。尖った施策で、いわばピンホールを狙うことが重要。また、最近『観光』といわず『ツーリズム』という呼び方をする場合も多いが、それは、昔のいわゆる物見遊山的なものではなく、そこを訪れる人に様々なおもてなしをしていくという意味だと思う。その場合はサービス産業や市民も巻き込んだものになる必要がある。そう考えると、この多摩エリアにもビジネスマンや大学を訪れる様々なビジターが既にいるので、そういうところにも大きな可能性はあると思う。」とのことで、最初に『観光』というものの捉え方についての新たな視点を示されました。

■ポートランド事例と多摩地域の可能性

…また、安井教授は、今、全米で住みたい街No.1になり、日本からの観光客や移住者も増えているアメリカのポートランドの事例も示されました。「ポートランドは特に観光地でもない街。それなのになぜ、人気が高まっているのか。それは“暮らしの質が高い”ことにある。市内には110か所のビール醸造所があり、公園も広域的にたくさんあるため、人々の交流が盛ん。土地利用についても境界線が設置され、農業も盛ん。近くの農場からの新鮮な作物が入り、食文化のレベルも上がっている。また、市民が街づくりについて意見を出し合う集会やそれを実践する実験なども多く行っている。このようなことで、街の暮らしの質が向上したため、多くの企業が入ってきて、人も入ってきて、観光客までが増えてきている。市民の活動を見える化するだけでも、何か変わってくるのではないかと。多摩地域は都心で働く人の“暮らしの場”として、長年、（裏面に続く）

貢献してきているのだから、大きな可能性はあると思っている。」とのこと。この方向性は、東大和市の大きなヒントになるのではないかと感じました。このようなポータルランドの事例から、国土交通省でも、地域の主体性を高めた観光街づくりというものを提唱しているとのこと。

■各市の市長からは

…次に、各市長から各市の観光の現状や課題について話がありました。その主なポイントは以下の通りです。

【立川市】昭和記念公園、駅周辺のショッピングエリア、箱根駅伝の予選、花火大会、市民マラソン大会などのイベントと訪れる場所をどのようにつないで回遊性を高めていくか。また、観光マップやHPなどの情報発信をどのように高めていくかが課題だ。

【昭島市】拝島大師は正月には初詣客でスゴイ賑わいだが、通常は閑散としている。日吉神社の例大祭は有形文化財となっているが、その時だけだ。そういった神社仏閣はあるが、それを十分活かしてきていない状況だ。また、昭島市の水道は深層地下水100%ということブランド化していきたい。さらにオリンピック競技でもあるクライミングの3つの競技ができる施設が全国で初めて作られて、先日世界大会があった。さらに、昭島駅から3分のところに企業がラグビー場を作ってくれたことになったので、2019年のラグビーワールドカップも盛り上げていきたい。

【小平市】都心から30分圏内の好立地にありながら、豊かな自然が残る素晴らしい住宅都市だ。“ふるさと”のイメージを持った街、都会から一番近い“プチ田舎”をキャッチコピーに観光事業を展開している。観光を切り口に住みたい、住み続けたいという街にするように進めている。玉川上水の分水の用水路には開拓当時の風景が残っている。昨年、民間主体で小平観光街づくり協会が設立された。企画から事業の実施に至るまで会員で進める体制を整えている。小平市にはオープンガーデンを取り入れ、街歩きを楽しんでもらうことや、武蔵野うどんの食べ歩きのスタンプラリーなどもやっている。

【日野市】“新選組のふるさと”ということを全国に広めて、観光を進めている。5月に新選組まつりを開催している。高幡不動、多摩動物公園が日野市にはあり、多くの人を訪れるが、課題としてはこれらの様々なことが“点”であり“線”となっていないこと。素泊まりの小さなホテルしかないので、滞在してもらうためにもホテルが必要だと思っている。

【国分寺市】JR中央線の駅が2つ、西武線も2本入っており交通の要所だが、市民に住みやすい街と思ってもらえるようにしなければならぬと思っている。市政戦略室というものを設けてシティープロモーションをしている。国分寺という名が残っている自治体は全国で当市だけになった。武蔵の国の国分寺ということで、全国68か所ある国分寺の中で最大級のものを持っているという魅力をもう一度アピールしていきたい。

訪れる人を増やしたい。緑豊かな街として都市農業の保全に力を入れて「こくベジ」プロジェクトにも取り組んでいる。

【国立市】当市は江戸時代の流れのエリアと90年前に開かれた大学街という風に2エリアだが、小さな街なので、街そのものが魅力を有していなければ戦えないと思っている。ケンブリッジのように大学を中心とした緑豊かで文化的な街にしたい。立川市、国分寺市があって、国立市は何を狙うのか？例えば旧山手通りの代官町のような閑静な街にすること自体が集客性を持つと思っている。観光街づくり協会という民間の団体が早くから活動しており、フィルムコミッションも進めてもらっている。H28年度で80件ほどロケが行われた。街の小さな魅力を集めて全体の魅力を高めたい。9市とは文化の網をかけて、瀬戸内芸術祭のようなものを9市で3か月ぐらいやったら良いのでは。

【福生市】米軍基地もあり、酒蔵もある街。レンタサイクル事業をしていて、2時間で洋と和の文化が味わえる街としている。よく基地に入って米兵と話す、日本でどこを訪れたか聞くと、京都、奈良、富士山、23区内。多摩にも良いところがあるからレンタサイクルで行って見たらと紹介すると、みんな行ってくれる。その際に問題なのが道路標識。こういうものを9市で取り組んでいけたら良いのではないかなと思う。

【東大和市】狭山丘陵、多摩湖、豊加島神社、プラネタリウム、戦災建造物の旧日立航空機株式会社変電所があり、市の北側から歩いてもらえば楽しんでもらえる街だと思っている。その他、多くの人に来ていただくために“うまかんべえまつり”や“スイーツウォーキング”を開催している。さらに、今年からシティープロモーションも進めている。大きな課題は宿泊施設がないことだ。立川市の宿泊施設を利用いただき、周辺の市を周回してもらえれば良いと思う。

【武蔵村山市】先日、モンゴルに行つて高校で講演をした。武蔵村山市を紹介する際にトトロの森と言ったら、すぐにわかってくれた。鉄道の駅はないがモノレール誘致を頑張っている。かたくりの湯や外国人にも喜んでもらえるような桜のライトアップなどもしている。その他、四季折々が楽しめるイベントがあるので2020年には海外の方にも訪れてもらいたい。

■マーケティング力と情報発信

…今回のサミットの中では、立川市と福生市でレンタサイクルの相互利用をして、乗り捨てができるようにしないかと意気投合していました。サミットを傍聴して思ったのは、やはり、近隣市の動きを知ることには良い刺激になるということ。連携と切磋琢磨が必要だと思いました。また、外を見て知ること、今、求められている(≒トレンド)をマーケティングすること、そして情報発信をすることが重要だと感じました。市長は行政のトップ。ビジョンを示すには大きな視野が必要です。各市の市長も、様々な情報を獲得し、人脈を作っているようです。尾崎市長も今回のサミット参加で、刺激を受けられたことと思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」
【プロフィール】



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギッ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102